



進取の気性

第10号

令和5年12月15日発行

校長 堀越 勉



教育目標

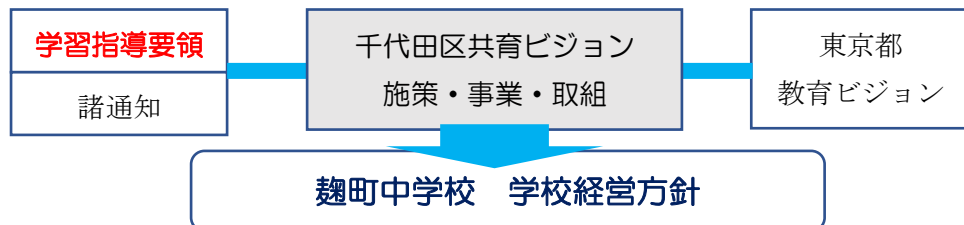
自律

尊重

創造

麹町中を整える（その⑤） 授業時間を確保

＜前提＞ **学習指導要領等に基づいて**麹町中学校の教育活動を整えています



校訓 進取の気性

激しい変化に柔軟に対応し、新たなことに進んで挑戦していこうとする本校伝統の精神

授業時間は50分×1015時間

全国の中学校における教育の機会を均等に確保するために、学習指導要領では標準時数として1年間で50分×1015時間の確保を位置付けています。各学年における各教科の時数も決まっています。子どもたちが様々な教科の学習をバランスよくできるように考えられています。ですから、学校の都合によって特定の教科に著しく偏るような運用をすることなく、様々な子どもたちの学習に対する興味や関心に対応したバランスの良い教育活動が行われるよう、制度上の仕組みが確立しています。非常変災やパンデミック等の例外を除き、全国の学校がこのバランスの良い授業時数の確保に向けて、教育課程（教育計画）を編成しています。

麹町中の制度を整える

麹町中学校の現行の授業時間は、45分に設定されています。毎時間5分間を削って6コマ分集め、朝の30分間の麹中スタディの時間に当てています。この時間の使い方は①**単元テスト**②**課題学習**③**自学自習**になっています。このことは、あたかも主体的に学ぶ環境が整えられているように見えますが、②と③において自主的に学習できる子どもと、学習に自ら気持ちが向かない子どもとの大きな差が生じているのが現状です。この結果、**学力の2極化**が進行していく原因となっています。

また、自主的に学習できる子どもの状況を観察すると、自ら課題を見つけ取り組む姿と、ひたすら「塾の宿題」に取り組む姿に分かれます。これまで本校が「宿題廃止論」で広報されてきた姿と、授業時間を削って確保した時間に「塾の宿題」に取り組む姿に矛盾を感じています。「45分授業問題」は、学校運営協議会における協議事項として意見を頂きました。整えていく必要があると考えています。（HP参照）

45分授業と50分授業の違いは？

「たかが5分、されど5分」です。授業の主たる教材である教科書は、50分授業を想定して作られています。

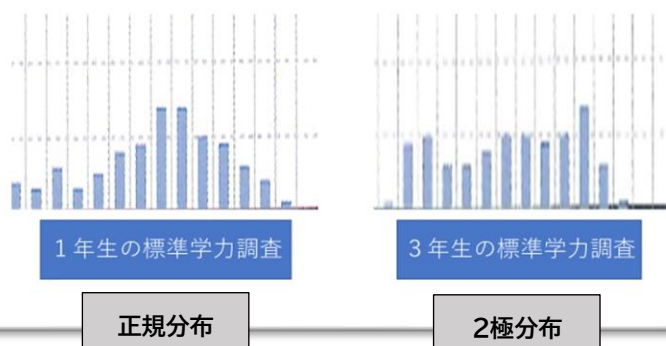
別表第2（第73条関係）

区 分	各教科等の授業時数									徳の授業時数 特別の教科である道	総合的な学習の時間 の授業時数	特別活動の授業時数	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語				
第1学年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	50	35	1015
第2学年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	70	35	1015
第3学年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	70	35	1015

備考

- この表の授業時数の1単位時間は、50分とする。
- 特別活動の授業時数は、中学校学習指導要領で定める学級活動（学校給食に係るものを除く。）に充てるものとする。
- 各学年においては、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の授業時数から、文部科学大臣が別に定めるところにより小中一貫教科等の授業時数に充てることができる。

学力2極化（R5）



正規分布

2極分布

す。教員向けの指導書や、子ども向けの副教材等もこの教科書に基づいていますので、基本的に50分授業を想定しています。**授業の最後の5分間は**、授業の「ねらい」に迫ることができたのか？を子どもたちが自ら振り返り、教師が総括をして次の学習に繋げるための**とても大切な時間です**。本校の授業を観察すると、この5分間がどうしても確保しにくい状況が続いています。「活動有って、まとめ無し」の授業となってしまいます。この影響が大きく出て、全体の学力の低下につながっていると考えられます。**5分間×1015コマ=84時間35分の授業時間削減**の影響はとても大きいのです。

経年変化を複数の学年で追うと

学力の低下問題を論じるときに、その要因として、①指導力の問題②生徒の問題③制度上の問題に大きく分かれます。全国標準の学力テストを参考に、複数の学年の経年変化を比較してみると、グラフのように低下傾向が見られます。異なる教員、異なる生徒で実施している結果が、両方とも同じように低下していく傾向がありますので、これは**③制度上の問題**と考えられます。この点を改善し、確実に授業時間を確保しながら、「ねらい」「活動」「まとめ」が常にセットで保障される授業を実施していく必要があります。

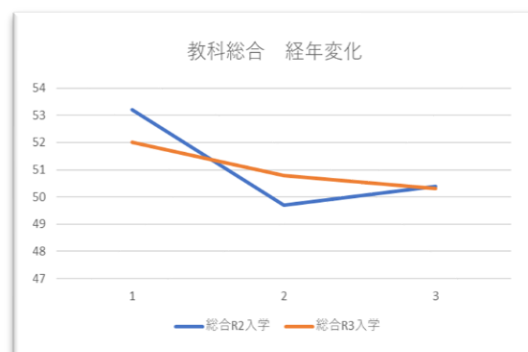
特別の教科道徳や実技教科における教育効果は？

50分間の道徳授業を45分+5分に分解して教育効果が発揮され则认为る教育者はあまりいません。ですから、本校では50分×35回の道徳授業を45分×40回実施し、学習指導要領の求める授業時数を確保しています。実技教科も同様に分解することができませんので、必然的に授業回数が増えています。

このことの歪みが、土曜授業になって現れています。本校では土曜授業を11回設定して授業時数を確保していますが、生徒の欠席率が高く（最大で24%欠席）、授業として成立させて良いものか疑問が残ります。習い事等に通う事情がある生徒にとっては、出席できない状況ですし、部活動の大会もあります。年間を通して高等学校の体験入学等も土曜日に実施されることが多く、3年生にとっては大きな問題になっています。これらも、**45分授業という制度上の問題点**から発生した事象となっています。

土曜授業日と学校公開日

土曜日は休業日です。様々な学校行事等のために設定することはありますが、上記の様な子どもたちの現実に配慮すれば改善する必要があると考えています。また、本校では土曜日を学校公開日としていますが、保護者の皆さんの中には土曜日勤務で学校に来られない方もいます。このような方に配慮し、学校公開週間として一週間を公開している学校もあります。土曜授業の削減と学校公開週間の設置に向けた改善も進めてまいります。



令和6年度教育課程編成方針

- ① 50分授業の実施・学習指導要領に基づく
- ② 土曜授業の削減・生徒の実態に配慮
- ③ 学校公開週間の設定・保護者・地域の実態に配慮

英語で振り返り(全校朝会)

12月の全校朝会では、1年間の心の成長について自分自身を振り返り、相手に伝えるプレゼンテーションを行いました。「人は水と同じで、日々の生活の中でいつの間にか流されてしまいがちです。節目節目に自らを振り返り、自分を評価するとともに、新たな目標を立てることが大切です」と、繰り返し話をしてきましたが、今回は師走の節目に全校生徒で意見交換をしました。

更に、本校生徒の特色である「英語でコミュニケーション」を意欲的に頑張ってきた成果として、代表6人に1年間の振り返りを英語でプレゼンテーションしてもらいました。日頃の英語学習の成果が発揮されました。一般生徒もこれを見て、内容がよくわかったという人が沢山いて、聞く側の能力の高さも驚きです。

